

「てくれる」構文とポライトネス

李奇楠（北京大学）

要 旨

「てくれる」構文は、授受表現の一用法としてどのような発話行為の遂行に貢献しているか、受益の客観性マーカーとしてポライトネスとの関係はどうなっているのか、本論文は具体的用例の分析にもとづき、その語用論的考察が行われる。おもに、感謝、依頼、謝罪、励まし、批判、褒め、慰めなどの発話に「てくれる」構文の使用が見られ、それぞれの発話行為において「てくれる」構文の形態特徴およびその他の副詞や終助詞などのセンテンスの構成部分との共起を視野に入れ、発話参加者の人間関係などの語用論的条件との関連でそのフェイス配慮のポライトネスストラテジーを考えた。

キーワード：「てくれる」構文、発話行為、ポライトネス、客観性、フェイスへの配慮

1. はじめに

日本語には感恩文化の表れでもあるような言語現象が数多く存在していると言えるであろう。その中に使用頻度の高い「てくれる」構文もプロトタイプの用法だと考えられる。この授受表現の受益マーカー的使用はポライトネス、発話機能との関係はどうなっているのか、これらは今回の本論の中心的テーマとなっている。

森山（2000：79）では、「てくれる」構文について以下のような論述がある。

〔4〕 やりもらいの表現とその周辺

4-1 使い分け

「やる（あげる）・もらう・くれる」はいずれも利益の授受（恩恵）に関する表現であり、授受表現とか恩恵表現などと呼ばれる。これらの形式は基本的には次のように整理できる。

「もらう」：主語が受け取る、表現者の立場は受け取り手

「やる（あげる）」：主語が渡す、表現者の立場は渡し手

「くれる」：主語が渡す、表現者の立場は受け取り手

動詞だけで授受を表すこともあるが、「テ形」の動詞について「てもらう」「てやる（てあげる）」「てくれる」のように恩恵関係を表すこともある。

上記の森山（2000：79）における論述によると、「てくれる」の使用は、恩恵関係を表す用法だと言える。さらに、同じく森山（2000：79）では、次のような「てくれる」関連の問題が提出されている。

〔問題3〕日本語では、格助詞や目的語が省略されることがある。しかし、やりもらいの形式を解釈の手がかりすることができる。例えば、「私だけ愛していた」と「私だけ愛してくれていた」の意味を比べてみよう。解釈はどう限定されるだろうか。

文脈抜きで考えると、「私だけ愛していた」は二通りの解釈ができる。つまり、私が愛する主体か愛される側かどちらかになる。「私だけ愛してくれていた」は「てくれる」構文の使用で私が愛される側であることしか解釈できない。「てくれる」構文は、利益の方向性は話

し手や話し手側の人間に限定しているからだと考えられる。

本稿は上記森山（2000）のような「てくれる」構文に関する文法論的意味をベースに、語用論的立場から発話行為との関連でその具体的ディスコース使用のポライトネスとの関係を視野に入れて考察し、分析する。

2. 先行研究について

「てくれる」構文のようなやりもらいの表現は、日本語の文法範疇の重要な一部分として、従来言語学者とりわけ文法学者に重要視され、論じられてきた。1で取り上げた森山（2000）はもちろんそうであるし、その他は、たとえば、佐治（1989:146）においては、次のような内容がある。

「てやる」「てくれる」は格体制の変更をもたらさず、ヴォイスの形式とはいえないが、それを加えることによって、コトに、人物間の恩恵のやりとりの観点を加えることになり、事柄を描く話し手の視点が現れてくる点で、ヴォイスの表現と相通じるものがある。

佐治（1989:146）では「てくれる」構文の使用は話し手の視点が加えられる表現形式であり、人物間の恩恵のやりとりがわかるスタイルであると認識されている。

守屋（2003:141）では、下記のような論述がある。

なお、コトガラ授受の場合、話し手と他者との間にある種のやりとりが成立していても、話し手が受益ととらえられるコトガラであれば、「くれる」を使って受益表現をすることができ(①⁽¹⁾)、これは自動詞の迷惑の受け身表現「雨に降られた」などと意味的な対称をなす。このことから日本語はコトガラを客観的に表現するだけでなく、受益か迷惑かといった話し手の情意的な見方に引き寄せて表現する特徴があることがうかがえる。

守屋（2003:141）のこの論述は「てくれる」構文による受益表現の可能性の実現を強調している。ちなみに、Langacker（2008）の認知文法論や小野・李（2016）などにもとづいて考えると、「てくれる」マーカの使用は受益の顕在化により、むしろ、言語の主観性ではなく、まさにその言語の客観性の証拠だと言えるであろう。

牧原功（2017:151）では、授受補助動詞の使用と配慮との関係について次のように論じている。

⑤授受表現

(2) E「ていただけるとありがたい」のように授受補助動詞を用いて利害を構文的に明示することで配慮を表す。授受表現は利害の発生を明示する働きがあるため、話し手が利益を受けることを明示することで、相手の積極的フェイスに働き FTA を緩和することができる。

牧原功（2017:151）では「ていただけるとありがたい」のような構文使用で相手のフェイス配慮との関係を明らかに示すことができると指摘している。

本稿は、上記のような先行研究の成果にもとづき、具体的発話行為における「てくれる」構文の使用に注目し、ポライトネスとの関連でさらなる語用論的考察を進めたいと考えている。

3. 感謝の発話における「てくれる」構文の使用

発話行為に関しては、語用論における Searle (1979) の言語行為理論や山岡 (2008)、山岡・牧原・小野 (2010) などによって認定されることになっている。

(1) そうした考えを、その態度で教示してくれた両親。このふたりのもとに生を受けたことを、心から感謝したい。そして、今まで育ててくれて、本当にありがとう⁽²⁾。

(五体不満足)

(1) の「今まで育ててくれて、本当にありがとう」は息子から両親への感謝の発話である。前半の「今まで育ててくれて」の「てくれる」構文のテ形使用は、後半の「本当にありがとう」の感謝の理由ともなるが、発話全体は、一つのまとまった感謝の発話行為を成している。ここの「てくれる」構文の用法は、直接受益者すなわち話者自身の視点からの表現スタイルだと言える。

(2) 大野智「お母さん 松潤をいつも産んでくれてありがとう」(vs 嵐 20140828 祝 8/30 松本潤誕生日)

(2) は、(1) と同じく「てくれる」構文のテ形使用の感謝の発話であるが、話し手大野智 (アイドルグループ嵐のリーダー) は直接の受益者ではなく、嵐のメンバーである松本潤と同じ立場であり同じメンバー同士としての仲間同士の(間接)受益としての表示であり、受益マーカと感謝マーカとの両立となっている。日本語らしい受益表現が伴う感謝の発話であろう。話し相手である松本潤のお母さんへのポジティブポライトネス⁽³⁾表現だと理解できる。

4. 依頼の発話における「てくれる」構文の使用

日本語の依頼の発話行為には、「てくれる」構文の使用がしばしば見られる。

(3) 「出版して、論文でも提出しない限り、白根さんにも、研究所の先輩にも、どうも、推薦してくれとはいえませんよ」(あした来る人)

(4) 私はイギリス滞在中、ある日本の学者が例のオックスフォード・アクセントをオーバーに使って話すのに対して、イギリス人が「たのむからそんなまねはしないでくれ」といていたのを知って、それほど語学力もなく、なまけ者で言語としての英語の修得に熱心でない私はシメシメと思い、自己流の英語をしゃべることについて自信をもったのである。イギリス人にいわせると、「そのほうがあなたのパーソナリティが出て、ずっとチャーミングである」とのこと。こんなことを書くと英語の先生にしかられそうであるが、それは東都や大阪の人々にとって、東京の者がむりに京都弁や大阪弁でしゃべると、ゾーッと、たのむからやめてくれ、という、あれと同じであると思う。(適応の条件)

(3) と (4) には、下線を引いた部分があり、それぞれ依頼の発話として使われている用例である。どちらも「～てくれ」の形が用いられ、親しい間柄や先輩後輩のような知り合い同士の間で使われているであろう。依頼なので、発話者受益の「てくれ」マーカの使用で、相手の邪魔されたくないネガティブフェイスへの配慮ならびに、好かれないというポジティブフェイスへの配慮が同時に示すことができたと考えられる。(3) の「推薦して

くれ」は相手に「推薦」行為を遂行するように頼む依頼であるが、(4)の「たのむからそんなまねはしないでくれ」と「たのむからやめてくれ」は、「まね」という行為をしないように依頼しているから、依頼の発話であるが、「てくれ」構文の使用で、禁止の発話のポライトネス表現だとも言える。

(5)「杉子よ、杉子よ、俺の病気の時はどうか笑わないでくれ、たのむ。お前は親切な、人のいい女じゃないか。お前だけは笑うのはよしてくれ」(友情)

(4)と同じように、(5)の「どうか笑わないでくれ」と「笑うのはよしてくれ」は、いずれも相手に笑う行為を遂行しないように頼んでいるから、禁止の発話行為のポライトネス表現とも言えるであろう。もちろん「どうか～てくれ」の組み合わせでその切実に願う気持ちをより一層示すことができ、ここでは「笑う」行為を実施しないように懇願するネガティブポライトネスの客観性表現となっているであろう。

(6)——かつて蓮舫議員から「ペット以下の存在」と言われたこともありました。それが「離婚の理由のひとつかも」と臆測を呼んでいます。

その言葉は、いわゆる「パパのお箸でご飯を食べたくない」だとか「衣類と一緒に洗濯したくない」といった類のものではありません。あえて言葉にするなら、私の家庭内でのポジションでしょうか。ようは「いじられキャラ」なんです。あるコミュニティーのなかでしか通用しない感覚ですので、これすらも正確には伝わらないと思いますが……。例えば結婚する前、彼女に「芥川賞をとるから結婚してくれ」と伝えたことがあります。若さゆえの万能感で言ってしまった言葉ですが、結婚後も「いつとるの？」と彼女からよくいじられ、笑い合いました。つまり、そういう関係なんです。ですから私としては「ペット以下」と言われても全然嫌じゃない。

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/507feb633465b87d7dba47ffe044960ec57b4e01>)

(6)の「芥川賞をとるから結婚してくれ」は、発話者(ここでは、蓮舫議員の元夫)が好きな相手(蓮舫議員)へのプロポーズのことばであった。「てくれる」構文が使われている依頼の発話だと考えられる。依頼の発話行為だが、話し手自身が受益者である立場から言ったポジティブフェイスとネガティブフェイスへの配慮を示すポライトネス表現であろう。

(7)駒子はうなずいた。浜松の男に結婚してくれと追い廻されたが、どうしても男が好きになれないで、ずいぶん迷ったと言った。(雪国)

(7)にも「結婚してくれ」のプロポーズ発話がある。こちらは、日本では最初にノーベル文学賞を受賞した作家である川端康成の作品に使われているから、伝統的プロポーズのことばとして定着しているプロトタイプの表現であろう。「てくれる」構文のある程度ストレートの慣習的依頼発話の代表でもであろう。

(8)「じゃあ私のおねがいをおねがいをふたつ聞いてくれる?」(ノルウェイの森)

上記(3)～(7)の用例はすべて「～てくれ」の受益マーカである補助動詞の命令形のようなスタイルであるが、この(8)の「聞いてくれる?」は、る形の疑問文が使われている。選択的余地を相手に与えるネガティブフェイスへの配慮のポライトネス表現である。

「～てくれ」よりこの「てくれる?」の依頼は柔らかい響きができるであろう。

(9)屋根の雪を落す男を見上げて、「ねえ、ついでにうちのも少し落してくれない?」と、湯帰りの女が眩しそうに濡れ手拭で額を拭いた。スキイ季節を目指して早くも

流れこんで来た女給であろう。隣家はガラス窓の色絵も古び、屋根のゆがんだカフェであった。(雪国)

(9)は「てくれない?」の否定疑問構文が使われている依頼の発話であり、ネガティブフェイスへのより一層配慮するポライトネス表現であろう。それに、「ねえ」のような呼びかけ、「ついでに」「少し」のような副詞との共起もそのポライトネスの度合いを増していることになっている。

(10)「そうだ、ではこうしたらどうだ」と部長は、思いつきを得たかのように云った。

「諸君のところの会社は軍需会社であるによって、敢て軍に頼らなくとも、諸君の考え通り何でも自由に出来る。だから一つ考慮して、我々に協力してくれないかね」(黒い雨)

(10)も依頼における「くれる」構文の変体用法だと言える。「我々に協力してくれないかね」は否定疑問文+相手の意向を尋ね・確認する終助詞ね(てくれない+か+ね)の使用となっていて、ネガティブフェイスへの配慮の度合いがぐっと高まってきている。

(11)「本当に聞きたいんです」と僕は言った。「もしよければその話を聞かせてくれませんか?」(ノルウェイの森)

(11)は複文における「くれる」構文の使用であり、仮定条件の形(前件)+Vの使役形+てくれるの丁寧体の否定疑問形(後件)のような文法意味構造を通して、「てくれ」や「てくれない」のような前述のどの用例よりも複雑的長い構文スタイルとなり、さらなる丁寧なネガティブフェイスへの配慮のポライトネス表現を構築している。

(12)「でも私が眠るまでそばにいて抱いてくれるわよね?」(ノルウェイの森)

(13)緑は僕の胸にしっかりと抱きついた。「最高」と彼女は言った。「そんなに好きなら私の言うことなんでも聞いてくれるわよね?怒らないわよね?」(ノルウェイの森)

(14)「それで、私のことずっと大事にしてくれるわよね」(ノルウェイの森)

日本語には、終助詞のような文末形態マーカが発達していて、重ねて使われていることもよく見られる。上記(12)~(14)はどちらも「~てくれるわよね?」が用いられている。依頼の発話だが、かなり強引な強要な依頼行為であろう。恋人同士のような親しい間柄の人間関係における会話で、話し手の愛嬌・わがままが読み取れる同時に、そのネガティブフェイスへの配慮より生じたネガティブポライトネス表現をポジティブポライトネス表現へと変えようとしている話者の感情表出的テクニックに驚嘆せざるを得ない。それは「てくれる」とその後ろに付いている三つの終助詞「わよね」の積み重ねの用法との共起に由来しているであろう。受益マーカ「てくれる」と、自己主張の強い「わよ」と相手の意見を尊重する「ね」との意味的組み合わせで醸し出す独特的味わいのポライトネス表現であろう。

(15)「ナオミ!ナオミ!もうからかうのは好い加減にしてくれ!よ!何でもお前の云うことは聴く!」(痴人の愛)

こちら(15)の「もうからかうのは好い加減にしてくれ!よ!」は、一つの終助詞「よ」が使われている依頼の発話行為であるが、相手(ここでは話し手の好きな女性)にある行為をしないように強く要求する禁止の発話行為であり、しかも怒りさえ感じられる発話行

為である。それにしてもそのようなことをしないのは話し手にとって利益だと捉えているから「てくれる」構文が使用されている。怒り表出+禁止のような依頼行為を、「てくれ！よ！」の形を通して、表している用例である。

以上、依頼に関しては、さまざまな「てくれる」構文スタイルが考察できた。「てくれ」→「てくれる？」→「てくれない？」→「てくれないかね」→「てくれませんか」など、長ければ長いほどその配慮の意味合いが高じてくる傾向が、用例の分析を通してその詳細を分析できた。さらに、他の成分たとえば副詞や終助詞との共起でポライトネス表現としての立体的構図が見られた。とりわけ、「てくれるわよね」「てくれ！よ！」のような興味深い形態特徴も意味機能的に捉えられ、依頼と禁止と怒りなどの多行為交差的集合体が観察できて有意義であると言えるであろう。

5. 謝罪の発話における「てくれる」構文の使用

謝罪の発話行為にも「てくれる」構文の使用が見られる。

(16) 足首を木が挟んで動かさない。火事は三方から迫っている。父親は辺りを見まわして「もう駄目じゃ、勘弁してくれ。わしは逃げる。勘弁してな」と云ったかと思うと、丸太を放り投げて逃げ出した。少年は「お父さん、助けて」と叫んだが、父親は一度振向いて見るだけで消え去った。(黒い雨)

(17) あなたはなぜ僕をそんなに愛してくれたのでしょうか。僕が野島にたいする遠慮から、僕があなたにこびず、冷淡にしていた態度をあなたが買いかぶったのではないのでしょうか。僕は野島のことがなければ野島よりもなおあなたに媚びたかも知れない。私はこの手紙を出そうか、出すまいか、考えた。出さない方が本当と思う。だが出す。野島よ、許してくれ。(友情)

(16) の「勘弁してくれ」と (17) の「許してくれ」は、いずれも詫びる行為の発話である。てくれ形のまえの動詞との結びつきが定着している慣習的配慮表現だと言える。親子や親友同士の関係の謝罪発話として使われることが多いであろう。

6. 励ましの発話における「てくれる」構文の使用

本節 6 では、激励の発話におけるてくれる構文の使用を取り上げる。

(18) 僕は学校を出てからまだ二年しかない、だから金も別にない。滝ちゃんを一日も早く出してやりたいと思っても、たゞそれは思うだけのことでしかないんだ。これはこの前の晩お話しした通りだ。然し僕は本当にこの強い愛をもっている。安心してくれ。頼りないことだけれども、何時かこの愛で完全に滝ちゃんを救ってみせる。滝ちゃんも悲しいこと、苦しいことがあったら、その度に僕のこの愛のことを思って、我慢し、苦しみ、悲しみに打ち勝ってくれ。(近代作家入門)

(19) 「閑間君、お経がすんだら、今晚のところは早く寝てくれよな。明日、被服支廠へ、もう一度嘆願に行ってもらわんければならんからな。単独入手に切替えるという君の説は、裏を返せば諦観的にすぎると僕は思うな。御苦労だが、勇気を出してもらわなくては困るんだ。お百度を踏む気持になってくれよな」(黒い雨)

上記 (18) の「安心してくれ」「苦しみ、悲しみに打ち勝ってくれ」と (19) の「お百度を

踏む気持ちになってくれよな」は、個別マーカ儿的にはベース的には依頼、受益であるが、発話全体としては励ましと考えられる⁽⁴⁾。

7. 批判の発話における「てくれる」構文の使用

相手の非を指摘する場合、受益的視点の「てくれる」構文の使用で相手のポジティブフェイスへの配慮を示す表現となれる。

(20) 「困ったことをしてくれたな。今後こういうことがあったら、もう寺には置かれんから、そのつもりでいなさい。他にも数々……」言いかけて老師はおそらく柏木を憚って口をつぐんだ。(金閣寺)

(20) の「困ったことをしてくれたな」は、年上の老師から年下の青年への発話である。利益どころか迷惑ばかりのことを、「てくれる」構文で表現する自体に関しては、そのギャップで、批判されていることへの聞き手の心理的負担を減らそうとしている話者自身の努力が感じられるであろう。一種のポジティブポライトネス表現と考えられる。場合によっては、反語のようなユーモア的配慮表現になることもあるであろう。

(21) 「それは君、とんでもないことをしてくれたな。いつ渡したのか」と聞くと、「さっき、一時間ほど前に渡しました」と云う。(黒い雨)

(21) の「とんでもないことをしてくれたな」も同じく批判の発話である。「てくれる」構文の使用は反語的用法だが、どこかポジティブフェイス配慮の温かみが感じられる発話であろう。(20) の「困ったことをしてくれたなあ」より意味的にはさらにファジー的になり見事な反語的用法だと言えるであろう。

(22) 番組の終盤、視聴者の女性からのメッセージをキッカケに、十代の頃の内田のトレードマークだった「ショートカット」の話題に。90年代、従来のアイドル路線とはひと味違った、内田のボーイッシュなスタイルを真似する女子が多かった。当時を振り返り、内田は「あの、よくクレームが入りました。『真似したけども、全然似合わなくなっちゃったからどうしてくれるんですか?』とか、『男の子にモテなくなった』とか、もうすごくクレームをもらいましたけども」と、笑いながら告白。

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/77b6ba5cc5657a81eb8cc5bf4f7a21d2e59e596b>)

(22) の「どうしてくれるんですか?」は、広義における批判のクレーム(不満表明)の発話としてよく使われるであろう。受益の「てくれる」が用いられているが、「どうして」と文末の「んですか?」のような疑問文口調との組み合わせで一つのまとまった慣習的配慮表現だと言えるであろう。あまりにも慣習的用法になると、もはや「てくれる」構文の配慮的意味合いがあまり意識されずになってしまう恐れがある。

8. その他の発話における「てくれる」構文の使用

上記の発話行為以外に、褒めや慰めの発話にも「てくれる」構文の使用が見られる。

(23) 歌手・中島みゆきの代表曲『糸』の歌詞の世界を描いた同名の映画『糸』(公開中)の完成報告会に、ダブル主演を務める菅田将暉と小松菜奈が出席した本作で3回目の共演となったふたりは、以前から変わった点を問われ、「いっば

い差し入れしてくれるようになった」（菅田）、「子役と一緒に走っていた。いい父親になりそう」（小松）と互いのことをベタ褒め！

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/46fb45a0dddac3c88401cdddfbf1067912f978b>)

(24) 謝らなくていい。肩の力抜いて、辛かったら周りの人に助けを求めたらいい。今は辛いが、時間が解決してくれることもある。

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/66896f6b43c6e1cfde1217c9160d7a93197d2567>)

(23) の「いっぱい差し入れしてくれるようになった」は、話し手の菅田将暉より相手の小松菜奈に関する変化の状況を述べている文字通りの意味であるが、発話全体としては、褒めの行為を行うことになっている。その中に受益の「てくれる」構文が使われていて、ポジティブポライトネス表現と言える。(24) の「今は辛いが、時間が解決してくれることもある」という発話の語用論的背景は、乃木坂 46 の生田絵梨花が、三浦春馬さんの訃報に「まだ受け止めきれません」とある音楽特番欠席を謝罪したことのオンライン記事(20200723)について、読者からのコメントの内容である。全体の慰めの発話において「てくれる」構文の使用を通して、いま辛い境地にいる主人公と同じ立場に立ち、味方である意味を表し、ことばの温かみを感じられるポジティブポライトネス表現でもあろう。

(25) 「みんな無事でよかった。ほんとうによかった」と渡辺が云った。「生きていてくれてよかった。こちらは二度と会えまいと思っての、せめて死場所でも確めようと出て来たんじゃがの」(黒い雨)

(26) 「あなたがそう言ってくれて私とても嬉しいの。本当よ」と彼女は哀しそうに微笑しながら言った。「でもそれはできないのよ」(ノルウェイの森)

(25) の「生きていてくれてよかった」、(26) の「あなたがそう言ってくれて私とても嬉しいの」は、どちらも感情表出の発話機能を果たしている言語行為であろう。その中に「～てくれて」が使われ、話し手の感情の理由として述べるが、発話全体の表出機能に貢献している。全体の発話の骨組みである「～てくれてよかった」「～てくれてうれしい」は形態構造的には慣習的性質を持ち、ポジティブポライトネス表現となっている。

9. まとめ

「てくれる」構文は日本語のやりもらい構文における主要な一パターンとして、毎日読めたりしているほど使用頻度が高いと言えるであろう⁽⁵⁾。本論は、その使用と発話機能、ポライトネスとの関連を中心に考察した。

まず、「てくれる」構文の使用は、話者や話者側のその受益性を明示するマーカーとして用いられることは、認知文法論的に考えると、客観性の高い言語表現だと考えられる。

次に、「てくれる」構文形式の使用は感謝の発話行為であるか依頼の発話行為であるか、具体的にはどのような発話機能における使用か、その使用とポライトネスとの関係はどうなっているのか、今回の考察を通して、構文形式・発話機能・ポライトネスの三位一体の総合的分析ができた。たとえば感謝、依頼、謝罪、励まし、批判、褒め、慰めなど多様の発話行為に「てくれる」構文の使用が見られ、発話機能ごとに「てくれる」構文とポライトネスとの関係が分析され、同じ発話機能でも、「てくれる」構文パターンごとにポライトネスの度合いが異なることが詳細に観察・究明できた。

さらに、具体的コンテクストにおいて、発話者たちの人間関係などがわかる語用論的条件にもとづく考察を進められ、「てくれる」構文による発話行為の遂行状況やネガティブ・ポジティブフェイスへの配慮などがより明快的に捉えられたと言えるであろう。

注

- (1) ここの守屋 (2003:141) での①は「①晴れてくれましたね」を指している。
- (2) 用例の下線は筆者による。以下同様。
- (3) ポジティブポライトネスおよびネガティブポライトネスの概念規定は、Brown & Levinson (1987)を参照されたい。
- (4) 励ましの発話に関しては、詳しくは李 (2012) をも参照されたい。
- (5) たとえば BCCWJ (現代日本語書き言葉均衡コーパス検索システム) にて「てくれ」の文字列検索で 57553 件の結果が見つかった。

参考文献

- Brown, P. & S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. (邦訳:田中典子監訳 (2011)『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』東京:研究社.)
- Langacker, Ronald (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction* Oxford: Oxford University press (山梨正明監訳 (2011)『認知文法論序説』東京:研究社).
- Searle, J. R. (1979) *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech act*: Cambridge University Press, Cambridge.
- 小野正樹・李奇楠編 (2016)『言語の主観性』東京:くろしお出版.
- 佐治圭三 (1989)「第 5 章文法」『日本語概説』(加藤彰彦・佐治圭三・森田良行編) おうふう 107-185
- 牧原功 (2017)「丁寧さと関わる文法」『習ったはずなのに使えない文法』(合田すみれ・堀恵子編) くろしお出版 147 - 166
- 森山卓郎 (2000)『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房
- 守屋三千代 (2003)「授受」『日本語運用文法』(阪田雪子編著新屋映子・守屋三千代著) 128 - 148
- 山岡政紀 (2008)『発話機能論』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010)『コミュニケーションと配慮表現』東京:明治書院.
- 李奇楠 (2012)「励ましについての日中対照研究」『日本語コミュニケーション研究論集』第 2 号 79-88
- (2016)「『批判』の発話について」『日本語コミュニケーション研究論集』第 5 号 31-41

(李奇楠、北京大学、liqinan@pku.edu.cn)